

校名：琉球大学教育学部附属小学校

所在地：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番

電話番号：098-895-8454

記載日：平成28年5月17日

記載者：宮里 寧

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

教育目標に「一人一人が夢をもち、未来を生きる力のある子」を掲げています。21世紀は個性を大事にする時代であることをもとに、一人一人が将来の目標となる大きな夢をもち、自らの未来を、自分の力で生きることができると育成を目指しています。基本的な教育理念のもとに、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成を行っています。

特色ある取り組みとして、3学年から6学年と連続する豊かな宿泊体験活動（3年：家族、4年：山、5年：海、6年：社会）を実施しています。3年生の段ボールハウスでの校内宿泊体験学習、4年生の玉城青少年自然の家でのキャンプ体験学習、5年生のシュノーケリングを取り入れた海洋体験学習、6年生の長崎大附属小との平和学習交流を取り入れている九州修学旅行。

また、学校生活の中で、全児童を20班にたてわり編成し、6年生をリーダーに朝の挨拶運動、月1回のたてわり給食や清掃、休憩時間の触れ合い活動、毎週水曜日のたてピカ清掃など異年齢集団の体験が充実しています。

平成13年度から北海道教育大学附属旭川小学校との交流会を実施し、全校児童で交流(全体会・授業・給食等)を行っています。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしていません。
- ② 今後調査予定。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査ということではないが、研究発表会とは別にOBを交えての千原初等研究会を毎年実施しています。その際、名簿作成を行っているため、その後の活躍状況は把握している。概ね、管理職、県指定の研究主任や県教育委員会、各市町村委員会の指導主事等での活躍が目立ちます。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

- (1) 平成27年度総務省「先導的教育システム実証事業」に選定され、ICTドリームスクール実践モデルとして、民間企業と遠隔システムの共同研究を進めています。当該事業では、離島や学習に困難を抱える児童生徒への教育格差是正を目指し、ICT機器を活用した遠隔地間での交流学习及び遠隔授業を実践しています。さらに、コミュニケーションSNSを活用し、教員間でノウハウの共有を図ることも検討しています。
- (2) 地域の公立学校の校内研修や市町村教育研究所主催研修等に附属学校教諭を講師として派遣し校内研修の活性化を担っています。主に、研究課題やテーマ、教材研究に関する指導・助言を行い、附属学校の実践的研究成果も還元しています。
- (3) 公立学校教員の資質・能力の向上に寄与すべく、年1回の公開授業研究会とは別に、「5月から6月と9月以降1回」の全教諭の「公開授業」「授業研究会」の参会案内を出し共に学び合う授業研究会を目指しています。研究会の成果として「研究紀要」及び「千原初等教育研究会雑誌」を発行し、県内各小学校へ送付するなど、実践の共有化に努めています。

また、月1回開催している算数、英語部の定例学習会では、公立学校教員と教材研究等を行っており、教員間の情報交換の場にもなっています。夏期休暇中には、国語、道徳、図工、体育部が学習会を行っています。
- (4) 教育学部教員との定期的な合同連絡会議を開催し、学校教育の改善等に関する情報共有を図り、相互の連携を強化しています。また、校内推進委員会に教育学部教員が参加し、学部教育に関する研究に対する組織的な協力体制を推進するとともに、校内研究の方向性等に関する助言を得ています。校内研究では常勤教諭の研究授業を実施しており、教育学部教員の指導の下で研究を進め、実践の場として公開研究発表会を実施するとともに、実践結果の検証を行っています。
- (5) キャリア教育の指導のあり方を学ぶことを目的として、教育実習生を対象に選択科目「教育実習ボランティアD」を開講しています。教職を目指す学生の意欲や実践的能力を涵養するため、教員養成カリキュラム(教育実習・教育実地研究・児童生徒と関わる体験活動)や附属学校でのキャリア教育(ジョブシャドウ)において、教育学部と連携して学生を受け入れ、学生が児童生徒と直接的な交流ができる現場を広く提供しています。実習生に児童のキャリア教育を追体験させることで、学生自身が将来を見つめ直すきっかけをつくり、教職に就くことへのモチベーションの強化につなごうと試みているところです。
- (6) 学部及び大学院、教職員大学との学力向上等の地域課題に関する共同研究や地域の学校及び教育機関との連携による授業改善の実践を通して、学力向上等の授業モデルを公立学校に提供していきます。(H28以降)

- (7) 地域における学校教育の推進方策に資するため、組織マネジメント、カリキュラム開発及び児童生徒の多様な学びを実現する授業環境整備の在り方等に関する調査研究を行い、小中一貫教育推進モデルを提供していきます。(H28以降)
- (8) 学校教育のグローバル化に向けて、国際教育センターや独立行政法人国際協力機構(JACA)、外国人子弟との積極的な交流学習を通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を促進するためのカリキュラム開発を行います。(H28以降)
- (9) 学部・附属学校連携による IN-Child (包括的な教育を必要とする児童・生徒) への包括的教育システムの開発と ICT を活用した支援プログラムの実践的研究を行います。本事業により附属学校や教員養成課程学生支援(メンタルヘルス)及び沖縄県のニーズに応じた包括的支援教育システムの提供が可能になります。大学、附属学校、公立学校の抱える課題に対して、その克服に向けた研究の成果を教員養成教育に援用し、養成する教員の資質の向上につなげることができます。さらに、島嶼という沖縄県の地理的条件に鑑み、事業終了後は八重山・宮古をはじめとする離島地域における研究協力拠点(サテライト)の支援とネット配信による教員研修や授業研究、公開授業研究、包括的支援教育の必要な子や不登校児童への授業配信や離島の教育へ貢献していく取り組みを行います。(H28以降、事業申請中)

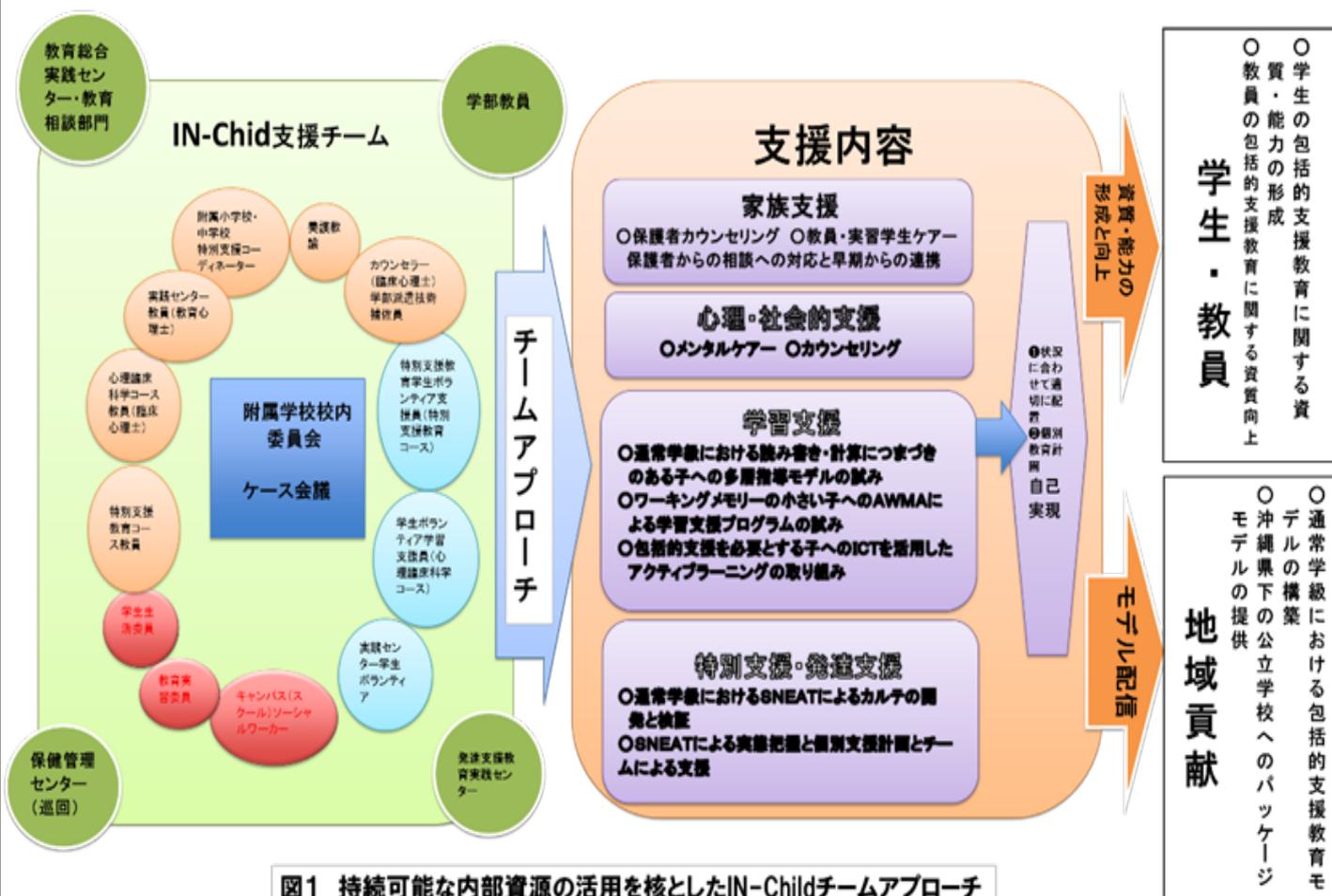


図1 持続可能な内部資源の活用を核としたIN-Childチームアプローチ支援システムの体系化の試み

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

国立大学の教員養成大学・学部の附属学校は、大方、戦前までにあった師範学校との関連があり、その伝統には歴史と教育研究の実績があって充実しています。そのような中で附属小学校としての歴史が若い本校は、昭和 57 年に開校し、本年度 35 周年を迎えます。創立以来、本学教育学部学生の教育実習の場はもちろんのこと、沖縄地域の実験校、校内研修のモデル校として、先導的な役割を果たしてきました。これからも、教育理論と教育実践に関する研究及び実践を行うこと、教育実習生に対し、教育者としての資質を磨き、教育実践者としての徹底した指導を行うこと、そして、研究発表会の開催や地域の教育界との交流等を通して地域の教育に協力することという大きな使命を担う存在であると考えています。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

マニュアル依存型から脱皮し、真にその学校に学ぶ子供を主人公に、そこに軸足を置いた実践研究、主体的に取り組む実践研究、沖縄県の先導的実践研究の役割を担っていると考えています。

平成 27 年 12 月、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」が提出されています。つまり、「答申：チーム学校」は、次期学習指導要領に示される新たな教育課程の達成を可能とするための、新たな学校組織の在り方の提示であり、その中で教職員の資質向上はどのようにあるべきか重要になっています。「社会に開かれた教育課程」を編成するなかで「アクティブラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」を連動させた学校経営が求められていますが、附属学校こそ、求められる学校のマネジメントのあり方を示すことができるのではないかと考えています。

以下、このページいっぱいまで、ご自由にお使いください。